

第29話 平安時代初期の文化

新しい仏教が盛んになると共に漢文学もまた大いに興った。大学以外に
私学校も幾つか設けられたが、とりわけ藤原氏の勸学院は最も盛んでした。

遣唐使に 賜った歌

延暦22年の3月、遣唐使がいよいよ出発しようとした時に、桓武天皇は遣唐大使 藤原葛野麻呂、
副司 石川道益らを宮中に召されて、餞別に
お盃を賜った。その時、お酒に添えて、
「このさけは往(四)にはあらず平らかに帰り
来ませと祝いたるさけ」というお歌を下され
たので、葛野麻呂は感泣して、涙を雨のよ
うに流した。並んでいる群臣も涙を流さな
いものは無かったということです。

これは、天皇が遠くへおやりになる御臣
下をいかに労わられたかという其の御心を拝
することのできるお話ですが、又、天皇が文
学の道にも堪能でおられた事を知ることの出
来るお話です。

天皇には此の外にもまだすぐれた御製が
いくつも伝えられています。



桓武天皇

漢文学の隆盛

この天皇を始め、平安時代の初めの頃の代々の天皇は、皆学問をお好みになったが、殊に嵯峨天皇は
此道にお志が深く、臣下にも頻りに奨励せられたので、先に奈良の都に栄えた漢文学は、嵯峨天皇
の御代に最も盛んになって、大いに文化も開け、空海、小野篁、菅原是善、都良香などの名高い
学者も相次いで出ました。

小野篁

篁は小野妹子の子孫で、少年の頃は武芸をのみ好んでこれに熱中していましたが、嵯峨天皇が彼の
文学の才の豊かなのを認められて、「立派な才があるのに、武人に甘んじようとするのか？」と嘆息な
されたので、篁もそれから志を改めて学業に励み、ついに一代の学者となったのでありました。
或時、天皇は篁に、「閣を閉じて唯聞く朝暮の鼓。楼に登りて遥かに往来の船。」という一連の
句を示されて、どう思うかと仰せられますと、篁は、「御製は誠に結構でございますが、『遥かに』を
『空しく』とお改めになりましたら、更によろしかろうとぞんじます」と申し上げた。

天皇は大いに驚かれ、「お前は前から此の両句を知っていたのか？」とお尋ねになった。これには篁も驚いて、「御製の両句を何でわたくしが予めぞんじて居ましょう」と謹んでお答えした。すると天皇は、「実は此の両句は白楽天の句で、もとの作には『空しく望む』とあったのを、お前の才を試みようと思って、仮に『遥かに望む』とかえて示したのだ。お前の学才は実に白楽天と同じである」といって大にお褒めになったということです。

白楽天は其頃の唐の大詩人で、其詩文を集めた『白氏文集』は平安時代のわが文人の大いに愛読したのですが、この時には僅かに一部来たばかりでして、朝廷の御秘蔵になっていたものですから、もとより篁は見えていなかったのです。世に伝えて美談としているのも尤もであります。

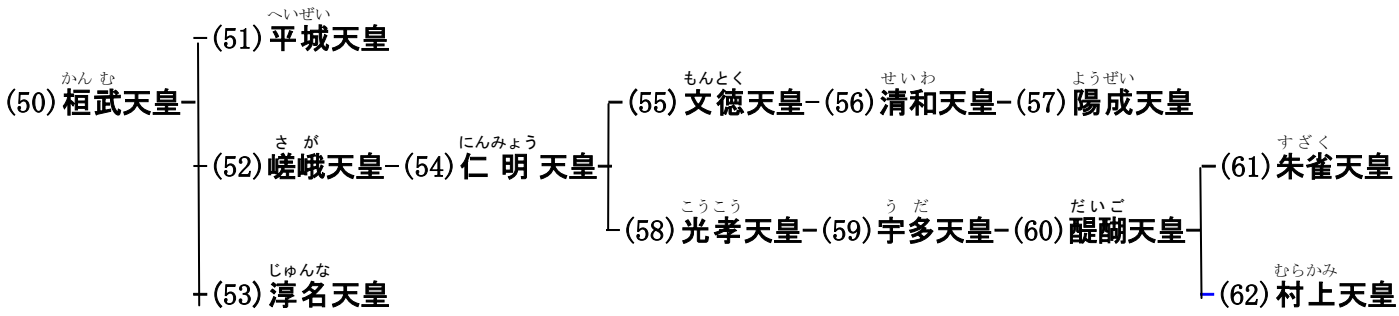
都 良香

又、都良香にも面白い話があります。彼は、或る時、「気霽れて風は新柳の髪を梳り」という句を作って、自分ながら大いに得意でいましたが、その対句が容易に出来ません。対句というのは、語や意味がうまく合って、二句で一对になる句のことで、前の白楽天の二句のようなのが即ちそれです。

此の平安時代の初期のころには、文学にすぐれているというのは、こういう対句などを巧みに作る事でもあったものですから、良香はどうかしてそれを作りたいと思いながら、或る月の明るい晩に、用事があって、羅生門の下を通る時にも、「気霽れて風は新柳の髪を梳り、・・・気霽れて風は新柳の髪を梳り、・・・」と幾度も口の中で吟じ返して、次に来る句を呼び出そうとしていると、ふと、門の上から「氷消えて波は旧苔の鬚を洗う」と吟じた者がいました。

良香は驚いて、門を見上げて見たが、誰もそこにはいませんでした。不思議な事もあるものだと思いますが、自分でもう一度、「気霽れて風は新柳の髪を梳り、氷消えて波は旧苔の鬚を洗う」と吟じてみると、非常な名句になっているので、大いに喜び、後にこれを人に見せて、其の夜の事を話すと、中には羅生門の鬼が作ったのだという者などもいて、いよいよ評判が高くなったということです。

文章や詩などを一心に作っていると、ふと、自分の考えではないような考えが頭に浮かんで来たりするもので、これもそういう例の一つであったでしょうが、折から月夜で、そこだけが暗い羅生門の下でしたから、鬼の作などともいったのでしょう。春雨が晴れて、気持ちのいい春風が新芽の萌えた柳の條をそよそよと吹き戦がし、池の氷が解けて、さざなみがひたひたと汀に打ち寄せるころの景色を詠んだもので、さすがに細かく行き届いた対句となっています。



第29話 平安時代初期の文化

くろう どどころ け び い し ちょう

蔵 人 所 と 検非違使 聴

さ が てんのう がくもん この 嵯峨天皇は学問を好まれたばかりでなく、又、政治の上にもいろいろの改革をなされた。 新たに 宮中に蔵 人 所 を設けられて、特に大事な文書を 扱 わせたり、京都に検非違使 聴 を置いて、警察の事務を執らせたりしたのなども、それです。 大宝の 律 令 が定められてから既に 百 余年を経て、時世も変わって来ましたから、それに適するようにお 改 めになったのです。

また、この平安時代の初期の頃には、『日本書紀』につづいて、『続 日本紀』、『日本後紀』、『続 日本後紀』などの国史をも相ついで作らせたり、又、御代々の臨時の法令や規則などを輯めた格 式 というものを作らせられたりしました。

し がっこう せつりつ 私学校の設立

こ 斯うして文化がいよいよ進んで、世が開けると共に、学問の必要はますます一般に多くなって来たので、有力な貴族は、官立の大学の外に、おのおの私立の学校を設けて、其の一族の子弟を教 育 した。 和気氏の弘文院、藤原氏の勸学院、在原氏の奨 学院、 橘 氏の学館院などが殊に有名です。 中でも勸学院は最も盛んで、後に藤原氏が盛んになった時には、官立の大学をも遥かに凌ぎ、ここの出身 者の方が昇 進も早かったといえます。 それは、此の学校でさかんに教育して、大いに人物を養成したから、後に藤原氏がますます盛んになったのだともいえるのであります。

(第 29 話 へいあんじだい 平安時代初期の文化 終わり。 次は一旦前頁に戻り、
第 30 話 ふじわら し しゅつせ 藤原氏の出世 へ)